

どんぐり

No.63



野外炊事における火おこし（加西市立九会・富合小学校連合）

兵庫県立
南但馬自然学校

HYÔGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKÔ

(Nature Education Center)



兵庫県立南但馬自然学校

副校長 大西伸弘

この「どんぐり」63号が皆様の所へ届いている頃は、「春もう間近」という言葉が似合う季節になつてゐると思ひます。巻頭言を書いている1月中旬の南但馬は、冬真っ只中ですが、比較的穏やかな天候が続いています。昨秋の木枯らし1号が吹いた頃よりカメリムシの姿を多く見かけるようになり、「カメリムシが多い年は大雪になる」という噂を聞いたことがあるので、この冬は雪が多く降るのではないかと心配していました。専門家によると、「カメリムシさん予測」には科学的な根拠はないようなので、このまま予測がはずれ、冬将軍が来なければよいのにと思つています。

自然学校の中核施設として自然体験の場を提供し、県下の公立小学校68校を受け入れました。各学校が自然の中で充実した長期宿泊体験を実施され、今年度の受け入れが無事終了しましたことに、職員一同、心より感謝とお礼を申し上げます。自然学校に参加された児童の皆さんにとって、自然とのふれあいや仲間との絆を深められた

4泊5日は、生涯心に残る思い出になったことでしょう。

本校はこの4月で開校20年、「ハタチ」の節目を迎えます。盛大なセレモニーよりも、「実」を伴つた開校記念の年とするため、年間を通したりレー形式の事業を計画しています。

年間テーマは「本物に感動し、絆に気付き、人と自然に感謝」です。まだ検討中ですが、主な行事を次のように紹介します。

今年本校に届いた年賀状に、明石市の小学5年生の方からのものがありました。昨秋10月本校での自然学校で実行委員として活動されたときのお礼と、「今年の5年生もよろしくお願ひします」とのメッセージが書かれていました。ご挨拶とともに後輩のことを気遣つておられる様子に、職員皆が深く感動しました。自然学校での様々な体験を通して、自ら学び、自然博物等の常設展示（関係機関との連携事業）

- ・4月 森の山菜さがし（遊友体験事業）
- ・5～6月 自然博物等の常設展示（関係機関との連携事業）
- ・7～8月 校地内の里山整備（関係機関との連携事業）
- ・10月 開校20周年記念シンポジウム
- ・11月 どんぐりの採取・ポット苗づくり（遊友体験事業）
- ・12月 開校20周年記念感謝祭（ふれあいフェスティバル）
- ・3月 里山づくりイベント（どんぐり苗木の植樹・椎茸の植菌）

きたいと思っています。



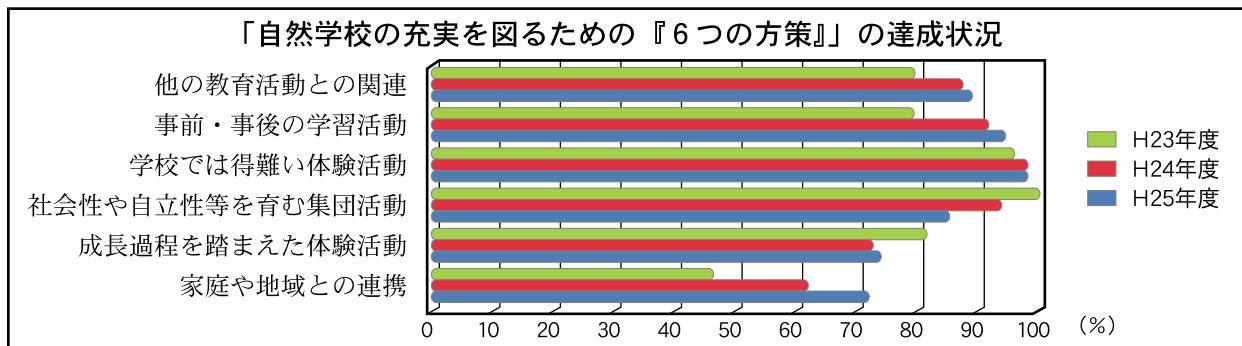
そして、来年の平成27年3月の里山づくりイベントでは、地元の梁瀬小学校と山口小学校の1年生や梁瀬幼稚園の皆さんのが採取されたどんぐりを、本校が苗木に育てています。この素晴らしい活動の素晴らしさに、改めて感激しています。この気持ちに応えるべく、次年度も引き続き、「おもて・な・し」の気持ちを持って多くの学校や団体を受け入れてい

本校は、県下初の自然学校中核施設として開校しましたが、現在学校の長期休業期間には一般の方々の利用もできます。近年人気の高い竹田城跡のビュースポットもありますので、多くの方のお越しをお待ちしております。利用条件等、詳しくは県立南但馬自然学校へお問い合わせください。

(3)どんぐり

平成25年度の自然学校実施報告書から

利用校から提出いただいた自然学校実施報告書から、平成19年度に自然学校評価検証委員会から提言された「自然学校の一層の充実を図るための『6つの方策』」に関する達成状況についてまとめます。



上のグラフは、利用校が「自然学校の一層の充実を図るための『6つの方策』」の達成状況について自己評価（「よくできた・だいたいできた・あまりできなかった・できなかった」の4段階）した中で、「よくできた・だいたいできた」を合計したものです。

ここ3年間の傾向は、「普段の学校生活ではできない南但馬自然学校だからできる体験活動を子どもたちにさせたい」という先生方の思いが多く、その達成状況は高い水準を保っています。体験活動を行うにあたって、どのようなねらいや視点でその活動を行っているのかの違いが、3年間での変化となって現れているのではないかと推測されます。増加傾向にある「他の教育活動の関連」「事前・事後の学習活動」「家庭や地域との連携」について検証します。

☆「他の教育活動の関連」について

小学校において、現行学習指導要領が完全実施されて3年になります。その中で、「言語活動の充実」や「体験活動の充実」、「社会の進展に対応した教育（例えば、食育、環境教育など）の充実」等が求められています。自然学校においてもこの求めに応じるように、各学校がプログラム編成を工夫されたことによって増加傾向になったと推測されます。

☆「事前・事後の学習活動」について

事前の学習活動としては、ロープワークや火おこし体験等を行う「自然学校出前講座」を利用する学校が増えています。また、南但馬自然学校周辺（兵庫県北部）の歴史や文化などを調べ学習として行っている学校もあり、中には、30時間もかけているところもありました。子どもたちが主体的に取り組む自然学校にしたいという教師の願いから増加していると考えられます。

事後の学習活動としては、「どんぐり No.61」で紹介したように「感動体験」を「新聞づくり」や「詩や短歌、俳句」などで表現する活動が多く見られました。このように体験活動を振り返り、言語活動を工夫して、子どもも自ら体験活動を通して学んだことを認識することの大切さが重要視されていると推測します。

☆「家庭や地域との連携」について

事後の学習活動が年々充実していくに伴って、その成果を発信する場が多く設定されるようになりました。保護者だけでなく、地域にも呼びかけて「自然学校報告会」を開催する学校や対象を4年生中心とした校内発表会を開催し、自然学校に対する下級生の期待度を高める活動を行っている学校も多く報告されるようになりました。子どもの発表をもとにして、自然学校を通して成長した子どもの姿を確かめ合われていると思われます。

《利用校の具体的な取組（実施報告書からの抜粋）》

他の教育活動との関連

- ・自然物クラフト（図工）・校区と南但馬自然学校との自然の比較（環境教育）
- ・思い出川柳・カルタづくり（国語）・稲刈り体験（社会）



事前・事後の学習活動

- （事前）
・実行委員による話し合い活動
・出前講座（ロープワーク・火おこし体験）
・プレ自然学校として野外炊事
・スカイプを使った学校間交流活動
- （事後）
・自然学校新聞づくり
・自然学校報告会
・但馬の魅力を伝える会（魅力を模擬体験してもらう会）



学校では得難い体験活動

- ・隠れ家づくり
・木から学ぼう
・竹伐採体験
・選択別チャレンジクッキング
- ・竹田城歴史探検

社会性や自立性等を育む体験活動

- ・一人用テント泊
・話し合う場の設定
・連合実施による他校児童との合同班編制
- ・各プログラムの企画チームによる運営
・選択プログラム



成長過程を踏まえた体験活動

- ・振り返り活動（カウンシルファイヤー、体験の記述等）
・オリジナルメニューの材料の買い出し
- ・体力に合わせた朝来山登山
・課題解決学習

家庭や地域との連携

- ・参観日での自然学校報告会
・与布土地域自治協議会との連携
・保護者からの手紙に対する返信

子どもたちは、活動を通して先生方の思いや願いを感じながら、多くのことを学んでいます。今後も「本物に感動し、絆に気付き、感謝する体験活動」を多くの大人に支えられ、子どもたちが自信をもち、更なる一步を踏み出そうとする意欲をもつような魅力ある自然学校が展開されることを願っています。

（文責 主任指導主事 御栗 康嗣）

県立南但馬自然学校の 調査・研究を振り返る



兵庫県立南但馬自然学校
主任指導主事兼指導課長

北條 勝也

① 平成15・16年度

最初に、自然学校が与えた影響と自然体験学習の実態と教育的効果についての調査研究を進めました。前回調査の8年前と比べて、ゆとり教育や総合的な学習の時間が充実をめざすようになつてきました。その後、「自然学校推進事業検討委員会」が設置され、教科活動と関連した児童の主体的な選択による活動の在り方や、家庭・地域と連携を深める新たなプログラムの設定等、活動内容の改善が指摘されました。また、小学校3年生での環境体験事業の全面実施により、自然学校推進事業との系統性、

兵庫県立南但馬自然学校が、平成6年に自然学校の中核施設として開校しました。設立当初は、自然学校の実施校の受け入れだけでなく、本校以外の学識者の参加を仰ぎ、「プログラム研究委員会」を組織して、「自然学校における先導的なプログラムの研究・開発」という業務を担っていました。

阪神・淡路大震災や神戸市須磨区の痛ましい事件をきっかけに、県が設置した「心の教育緊急会議」の提言を受け、子どもたちに自然に対する畏敬の念やたくましく生きる力を育むなど「心の教育」の充実をめざすようになつてきました。その後、「自然学校推進事業検討委員会」が設置され、教科活動と関連した児童の主体的な選択による活動の在り方や、家庭・地域と連携を深める新たなプログラムの開発、非日常的な体験活動を重視したゆとりのあるプログラムの設定等、活動内容の改善が指摘されました。また、小学校3年生での環境体験事業の全面実施により、自然学校推進事業との系統性、

関連性を持たせることを条件に、今まで5泊6日であつた自然学校を4泊5日以上とするなど、実施期間の弾力化を図ることとなりました。このような県の動きを受け、本校開校10年目以降の調査・研究内容を振り返ります。

③ 平成19・20年度

前回の安全教育の大切さを踏まえ、リスクマネジメントに関する調査を行いました。「ヒヤリハット事例」では、あらかじめ、それぞの活動で危険因子が潜んでいることを指導者が認識し、その活動の事前、および実施中に適切な指導を行うことでその多くは未然に防ぐことができる事が明らかになりました。また、自然学校における児童の環境に関する意識の変化については、児童の取組の程度や事前指導等における環境教育を意識した学校での取組が重要なポイントとなることがわかりました。



⑤ 平成23・24年度

自然学校の原点に返ることから、原体験度調査結果の分析と自然学校プログラムの検証について調査を行いました。大人になってから、原体験を体験する場が少ないと5つの生活態度との相関関係があることが明らかになりました。

⑥ 平成25年度

原体験の中でも、特に木体験に関する新たな活動の開発と木(竹)伐採活動を通しての児童の気づきについての分析を行っています。

今後は、自然との共生や生命の大切さ、地域とのかかわりを実感させ、様々な体験を通して自ら考え行動する力の育成に向けたプログラムやアクティビティの開発・開拓に努めていきたいと考えています。

② 平成17・18年度

具体的な内容として、南但馬自然学校の傷病記録からみた近年の

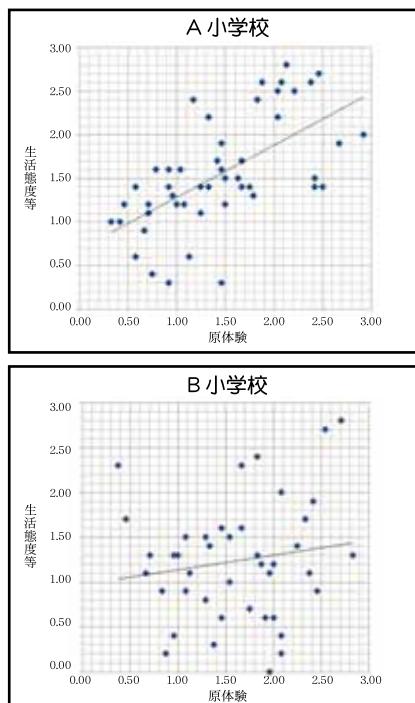
事故傾向の調査を進めました。炊事、基地づくり、クラフトに多くの刃物等の扱いに起因する怪我が多く発生しているため、刃物の扱いについて、より一層の安全対策、安全教育を行うことが望まれること、また、活動時間以外の特に自由時間での安全対策をとることが、大切であることが明らかとなりました。

病記録からは、怪我の発生が野外炊事、基地づくり、クラフトに多く中でも、刃物等の扱いに起因する怪我が多く発生しているため、刃物の扱いについて、より一層の安全対策、安全教育を行なうことが望まれること、また、活動時間以外の特に自由時間での安全対策をとることが、大切であることが明らかとなりました。

南但馬自然学校調査・研究委員会から

平成23・24年度の調査研究結果から、8つの原体験（水体験・土体験・石体験・木体験・草体験・動物体験・火体験・情感体験）と生活態度等（忍耐力・協調性・積極性・思いやり・自然への興味関心）に概ね相関関係があることが分かりました。また、児童の原体験で「木体験」がやや乏しいことも分かりました。この結果を受けて、原体験の有効性をさらに詳しく検証し、自然学校プログラムに対して、できる限り原体験を補うような活動が紹介できるように、プログラムの開発を進めていきたいと考えています。

★ 原体験の有効性、大切さをさらに詳しく検証していく部会



調査対象：2学期に木(竹)伐採を予定しているあるいは検討中の利用校11校、児童数580名（男子300名、女子280名）に原体験と生活態度等のアンケートを実施しました。

左のグラフは、原体験と生活態度等の散布図に線形近似曲線を合わせたものです。A小学校は、直線の傾きが1に近いことから原体験と生活態度等の間に相関関係があると言えます。この実態から、自然学校のプログラムに原体験度を高められる活動を取り入れ児童に経験させることで、生活態度等に対してより積極的な児童が増えるのではないかと思います。例えば、原体験度を高める活動を取り入れた個人選択プログラムの導入が考えられます。

B小学校は、直線の傾きが0に近いことから相関関係があるとは言えません。また、生活態度等に関して消極的な回答が多いことが読み取れます。このような実態を踏まえた学校では、自然学校のめあての中で、集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てるなど仲間づくりや信頼関係を深めることに重点を置いたプログラムが考えられています。そこで、原体験を取り入れた活動を通して、このめあてに迫ることもできます。例えば、伐採された木の重さを感じながら全員で運ぶことやグループで相談しながら行うクラフトを通して、集団としての成就感や達成感を味わうことができると考えられます。

平成26年度は、同様のアンケートを利用校に行い、アンケート結果を自然学校プログラムの編成に活かしていくように検証していくと考えています。

(文責 主任指導主事 御栗 康嗣)

★ 木(竹)伐採に関するプログラムの開発とその有効性を検証していく部会

木(竹)伐採体験実施校13グループ15校のうち6グループ8校に、活動後の振り返りシートの記入を依頼して、児童の思ったことや感じたことの文章表現から、児童の変容を把握しようと試みました。

それらをまとめた上で、木(竹)に関する内容は「触感」「におい」「音」、友だちに関する内容は「仲間」「協力」で分類し、どちらにも該当しないものを「その他」としました。

分類ごとに児童の感想を抜粋したもの一例は、以下のとおりです。

「触感」 一葉はチクチクしていたかったけど、また松を見つけたらよく見てみようと思います。
 「におい」 一松のにおいがどくとくの、きつい、いや~なにおいでした。
 「音」 一切り倒すときに竹がパキパキと音がしたのでびっくりした。
 「仲間」 一Tさんが竹を切り倒したりするとき、やっぱりTさんは力が強いと思いました。
 「協力」 一本を切る時、班の人がおさえてくれたり、のこぎりを代わってくれたりしたのが良いと思いました。
 「その他」 一木がたおれた時、たっせい感があった。

木(竹)伐採を通して、児童は様々な感想を持つとともに、先生方のねらいも達成されています。

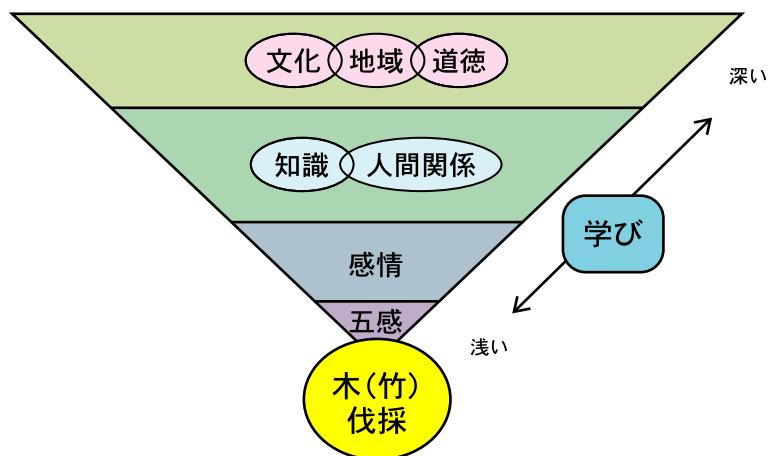
体験を通しての学びが、その後の活動に積極的に取り組むなど、十分に生かされ、児童の成長が見受けられました。

しかし、児童の変容を把握する有効な手がかりになった一方で、内容の焦点化が不十分であるという課題も残りました。そのため、木(竹)伐採に関するプログラム開発を考える上で、木(竹)伐採により児童にどんな学びが期待できるかを概念図としてまとめたのが右図です。

今後の方針としては、この概念図に基づき、児童の変容がわかる新たな木(竹)伐採に関するプログラムの開発に努めるとともに、ねらいに応じた「五感」「感情」「知識・人間関係」「文化・地域・道徳」の4領域の振り返りシートの作成を行っていきます。

(文責 主任指導主事 山根 伸治)

木(竹)伐採プログラムの学びの概念図



竹の多様な可能性を追求した自然学校

△三田市立松が丘小学校の取組△

9月 19日㈯ イケ伐採			
開始予定時刻	終了予定期間	集合場所	活動場所
8:15	9:00	工作室前	筆記用具
持ち物	軍手・長そで・長ぐつ・ボン・ツル水とう・あり		
あと	竹の木をやたおれてくることに気をつけた伐採をば。		
注意	竹を切る時は、からず、軍手をすること。竹は切たらおれてくるので、たおれてくる向きから、ちがう安全な場所へいどうしま。		
担当者			

事前学習「竹伐採」(しりより抜粋)



竹伐採



竹筒飯ごうづくり



竹バームクーヘンづくり

平成25年度は、5月6日(月)から11月29日(金)までの間に、ここ南但馬自然学校で県下各地の53グループ68校(利用延べ人数・約2万5千人)が、様々な活動を展開しました。ここでは、本校における自然学校の中から特色ある取組として、三田市立松が丘小学校の自然学校を紹介します。

三田市立松が丘小学校は、児童数33人(6班編成)で、平成25年9月16日(月)～20日(金)の期間、本校で自然学校を実施しました。松が丘小学校は、「主体的に活動する児童をめざすとともに、体験活動を重視した学校づくりに取り組んでいます。自然学校において、子どもたちは

11月29日(金)までの間に、ここ南但馬自然学校で県下各地の53グループ68校(利用延べ人数・約2万5千人)が、様々な活動を展開しました。【但馬の魅力を味わおう】をテーマに活動を企画し、その一つとして伐採した竹で、野外炊事や自然物クラフト等、様々な活動に取り組みました。まず、子どもたちは、事前学習としてインターネット等を活用し、竹の性質、竹の伐採方法、その際の安全上の注意や竹クラフトの製作方法、竹バームクーヘンの調理方法等を調べ、自然学校のしおりにまとめました。

その上で実際に竹を伐採し、子どもたちが、一人で、または仲間と力を合わせて、次のような活動を行いました。

- 竹筒飯ごうづくり 【班制作】
- ・竹オブジェ(花立て)づくり
- ・竹流しそば(そうめん)台づくり
- ・竹バームクーヘン用の竹筒づくり
- 【3グループによる共同制作】

○野外炊事

竹の端材を燃料として使用し、竹筒飯ごうで炊いたご飯を竹ばしを使つて食べました。また、竹バームクーヘン用の竹筒を使って、バームクーヘンを作つて食べました。

○キャンプファイヤー

使用後の竹筒飯ごうや竹の端材を、キャンプファイヤーの燃料として使いました。

(子どもの感想より)

みんなが初めてのこと挑戦をして、オブジェとか流しそうめん台とか竹バームクーヘンとかを作るのに挑戦してうまくできたらよかったです。

今日のバーベキューでは、但馬牛を食べて、共同制作の流しそうめん台やバームクーヘン作りなどに根気よく挑戦できていました。

竹バームクーヘン作りでは、みんなで協力して絆を深めて、バームクーヘンを作ることができたらから達成感があった。

そして、その日の振り返り活動では、事前学習として調べた知識がそのままおりに生かされて成功したことや、実際とは少し違つて失敗したことなどを、子どもたちに振り返らせました。



子どもたちは、竹を使つていろいろな活動ができることを事前学習で気づくとともに、「切つた竹をすべて使い切る」意識づけがしつかりできていました。環境教育の一環としても優れた取組であつたと言えると思ひます。

(文責) 主任指導主事 山根 伸治

自然学校における健康管理について ～平成25年度南但馬自然学校傷病発生状況から見えてくること～

平成25年度の自然学校を終えて振り返ってみると、子どもたちが活動中に見せる熱中している姿や笑顔が思い出されます。そのように充実した活動にするためには“個々の健康状態が良好である”ことが望まれます。本年度の傷病発生状況をまとめ、今後の指導の在り方について考えてみます。

1 傷病記録から

傷病発生状況と医療機関受診状況は、昨年度と比較して傷病発生率（%）が2.1から1.9、医療機関受診率（%）が0.3から0.2とそれぞれ減少しています。傷病発生の内訳では、内科の多くは「頭痛」「発熱・感冒」であり、医療機関を受診した中には、心因性の発熱や学校感染症と診断された事例もあります。外科では「切創・挫創・刺創」「打撲」「火傷・熱傷」が多く、骨折をした事例もあります。

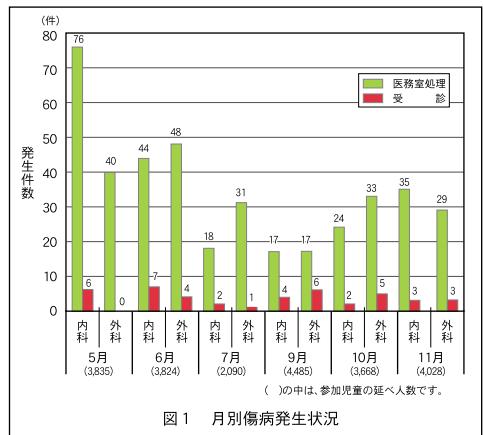
(1)月別傷病発生状況（図1参照）

傷病の発生状況を月別にみると、医務室処置が多かったのは5月で全体の28.2%になっており、1学期全体で見ると62.4%を占めています。医療機関受診率では、内科は、1学期が全体の62.5%であったのに対し、外科は、2学期に多くみられ、全体の73.7%を占めています。

(2)活動別と場所別けがの発生件数・受診数（図2・3参照）

活動別けがの発生件数では、「野外炊事」「自由時間」「隠れ家づくり」の順に発生しています。一方、受診件数では、発生件数の多い「自由時間」が多く、本年度は、「移動中」に起きたけがで受診した事例が続いています。

場所別にみると、野外炊事をする「野外キッチン」や自由時間を過ごす「生活棟」でけがが多く、「生活棟」「施設内道」「芝生広場」で発生したけがに受診が多くみられます。特に、「芝生広場」では、自由時間での開放感から活発に動くためか、骨折などの大きなかがにつながっています。



2 健康・安全管理面から見えてきたこと

子どもの健康・安全管理の指導ポイントとして、下記の2点が挙げられます。

(1)実施時期に応じた健康管理の在り方

新学年に進級した1学期は、精神的に不安定であるため医務室処置が多く、生活習慣が落ちていた2学期は、活動範囲も広がり、けがによる医療機関の受診が多くなるなど、月別傷病発生状況に違いが見られます。また、最近の傾向としてアレルギー疾患の児童が増加しています。自然学校実施前に体調を崩していると、実施期間中に体調が回復せず、様子を見ながらの参加になることもあります。事前の健康管理も含め、子どもたちの実態に応じた健康管理が、よりよい自然学校につながります。

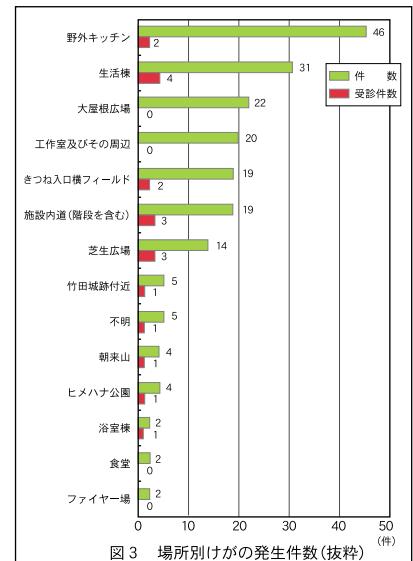
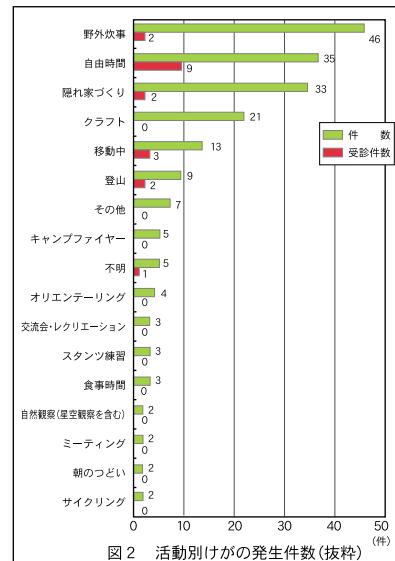
(2)安全指導の在り方

けがの発生に対する受診率の高い「自由時間」と「移動中」の受診事例を見ると、「芝生広場」や「施設内の階段・通路」での転倒が原因でした。子どもの「早く遊びたい」という気持ちや、「集合時間に間に合わないかもしれない」という焦りから、ついつい走ってしまい転倒しやすくなります。南但馬自然学校は、施設が広大で活動場所が点在しており、移動に時間がかかるため、余裕を持って日程を組む必要があります。安全面に配慮するためにも、プログラム作成にあたり、施設内の様子を確認するとともに、子どもの動線に合わせた下見が大切になります。

また、子どもたちの様子を見ていると、“この状態だと危ない”と予想されることがあります。このように危険を感じる「ヒヤリハット体験」において、それぞれの活動で危険因子が潜んでいることを教員が認識し、事前、実施中に適切な指導を行うことで、その多くは未然に防ぐことができます。

子どもたちが、自然学校を健康で安全に過ごし、様々な体験を通して、人と人との間（コミュニケーションの取り方）や自然との間（環境を考えた自然との接し方）、そして空間（自尊感情や他者への思いやりなどの豊かな心の育み方）を感じとり、その後の大きな成長につながっていくことを願っています。

(文責 指導主事 藤井 陽子)



平成26年度 講座・研修会のご案内

自然体験活動1日講座

目的：様々な自然体験活動に係る技術や指導法について研修し、指導力の向上を目指します。
 対象者：公立小・中学校（神戸市を除く）及び特別支援学校教員（初任者研修及び10年経験者研修の校外研修としても受講可）、公立高等学校（神戸市立を除く）教員（10年経験者研修の校外研修としても受講可）
 募集定員：各回40名程度

回	期日	内容
第1回	平成26年6月24日(火)	実習「自然に親しむ」（自然遊び・自然探索の指導）
第2回	平成26年10月7日(火)	実習・演習「自然を感じる」（自然を感じるアクティビティの指導・開発）
第3回	平成26年11月11日(火)	実習「自然物で創る」（竹伐採・自然物クラフトの指導）



<演習 アクティビティ開発>

自然学校出前講座

目的：本校の職員が要請に応じて県下各学校等を訪問し、自然学校の事前学習等の支援を行います。

実施期日：平成26年4月～平成27年3月（実施日は各学校等の要請をもとに調整します）

内容：○自然学校に関すること

- ・自然学校の趣旨説明・事前相談・事前学習・事後学習・事後相談・保護者説明会（原則、本校を初めて利用する学校のみとします）※出前講座として、兵庫県立南但馬自然学校で展開されるアクティビティの一部を行うことができます。（ロープワーク実習、火おこし体験、一人テント設営、野外炊事実習等）

○プログラムデザインに関すること

申込方法：実施1ヶ月前までに「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。

（※実施日については事前に本校との調整をお願いします。）



<演習 クラフト指導のグループワーク>

自然学校講座（指導者入門）

目的：自然学校の趣旨や指導者の役割を理解するとともに、野外体験活動等の実習を通して、指導者としての資質能力を高めます。

期日：平成26年8月26日(火)～28日(木) 1日または講座単位の受講も可

対象者：大学生、一般県民、県下の公立学校教員（高等学校初任者研修及び10年研修として受講可）、自然学校に関心のある者

募集定員：30名

内容：自然のお話・自然観察、染め木、活動におけるリスクマネジメント、朝来山登山とセルフガイドシートづくり、隠れ家づくり、天体望遠鏡の使い方と星空観察、野外炊事（食材の買い出しも含む）指導の基礎基本等

参加費：宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費が必要です。

フレ自然学校・アフター自然学校

目的：創意工夫を生かした体験活動の展開を支援、自然学校の事前・事後活動の充実を図ります。

期日：日帰り又は1泊2日

- (1)自然学校受入期間中 金曜日・土曜日受け入れ可（金曜日から土曜日にかけての1泊2日も可）
- (2)自然学校受入期間以外 いつでも受け入れ可

対象者：県内公立小・中学生

内容：施設散策オリエンテーリング、朝来山登山、自然体感ゲーム、クラフト、野外炊事、隠れ家づくり、テント泊等
経費：食事代（弁当持参も可）、施設使用料、活動材料費が必要です。



<雪遊び>

親子で自然学校～親子で南但馬自然学校を楽しもう～

新企画 第1回 平成26年4月26日(土)～4月27日(日)

第2回 平成26年8月23日(土)～8月24日(日)

第3回 平成26年12月20日(土)～12月21日(日)

第4回 平成27年1月31日(土)～2月1日(日)

第5回 平成27年3月14日(土)～3月15日(日)

参加費：宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費が必要です。

対象者：原則として県内の小学生とその保護者 ※原則1泊2日ですが、日帰り希望も受け付けます。

募集定員：各回10組（40名程度）

内容：山菜さがし、竹伐採と竹細工、ナイトハイク、自然と遊ぼう、バードウォッチング、キャンプファイヤー、朝来山登山、自然物クラフト、星空観察、野外炊事、キャンドルづくりとキャンドルサービス、植樹、椎茸菌うち等

申込み：事前に参加申込が必要です。各回の実施日10日前までに申し込んでください。（第1回については5日前まで）

遊友体験事業（里山遊友体験）

期日：第1回 平成26年4月26日(土) 「新緑の里山を楽しもう！」～森の山菜さがし～

第2回 平成26年7月12日(土) 「初夏の里山を楽しもう！」～水辺の生き物さがし～

第3回 平成26年11月1日(土) 「紅葉の里山を楽しもう！」～さつまいも掘りとどんぐり採取・

参加費：保険料が必要です。

ポット苗づくり～

対象者：一般県民（子どもだけの参加はご遠慮ください）

申込み：事前に参加申込が必要です。各回実施日の5日前までに申し込んでください。

※詳しくは、兵庫県立南但馬自然学校指導課までお問合せください。

南但馬自然学校だより「どんぐり」No.63 ●平成26年3月 ●兵庫県立南但馬自然学校発行

●〒669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原189 ●TEL (079) 676-4730 ●FAX (079) 676-4008

●URL <http://www.shizengakko.jp/> ●E-mail mtajimashizen@pref.hyogo.lg.jp



資源保護のため環境に優しい
ペタブルインキで印刷しています。